



2008年8月7日

各位

川崎近海汽船株式会社
代表取締役社長 森原 明
(問合せ先)
経理部長 高田雅彦
TEL : 03-3592-5829
経営管理部長 友井彰彦
TEL : 03-3592-5816

当第1四半期(2008年4月1日~2008年6月30日)におけるわが国経済は、米国のサブプライムローン問題に端を発した金融不安や原油価格の高騰による原材料価格の上昇などにより、個人消費は伸び悩み、景気の減速感はより一層強まりました。

海運業界においては、外航海運は引き続き市況が高水準で推移しましたが、内航海運は燃料油価格の更なる上昇により、運航コストの増加を余儀なくされました。

このような状況下、当社の第1四半期の連結売上高は121億91百万円となり前年同期比では10.7%の増収となり、連結営業利益は9億83百万円となり2.5%の増益、連結経常利益は9億73百万円となり8.1%の増益、連結当期純利益は5億64百万円となり7.1%の増益となりました。

第1四半期比較

(単位:百万円)

	2009年3月期	2008年3月期	増減額	増減率
売上高	12,191	11,012	1,179	+10.7%
営業利益	983	959	24	+2.5%
経常利益	973	900	73	+8.1%
四半期純利益	564	526	38	+7.1%
平均為替レート	¥102.84	¥118.91	¥-16.07	-13.5%
バンカー価格	¥75,100	¥53,550	¥21,550	40.2%

事業の部門別業績概況は次の通りです。

「近海部門」

近海船市況は高値圏で推移し、石炭等バラ積貨物輸送では運賃水準が上昇し高収益を確保しました。また鋼材、雑貨、木材製品等の定期船貨物も安定した輸送量を確保しました。

同部門の連結売上高は54億26百万円となり前年同期に比べて9.7%の増収となりました。

「内航部門」

鉄鋼メーカー向け石灰石専用船を新造大型化した結果、輸送量は前年同期を上回りました。製紙会社向け紙輸送専用船は安定した輸送量を確保し、内航ロールオンロールオフ船定期航路においても新規貨物獲得を積極的に取り組みましたが、燃料油価格の高騰は収支に大きな影響を及ぼしました。

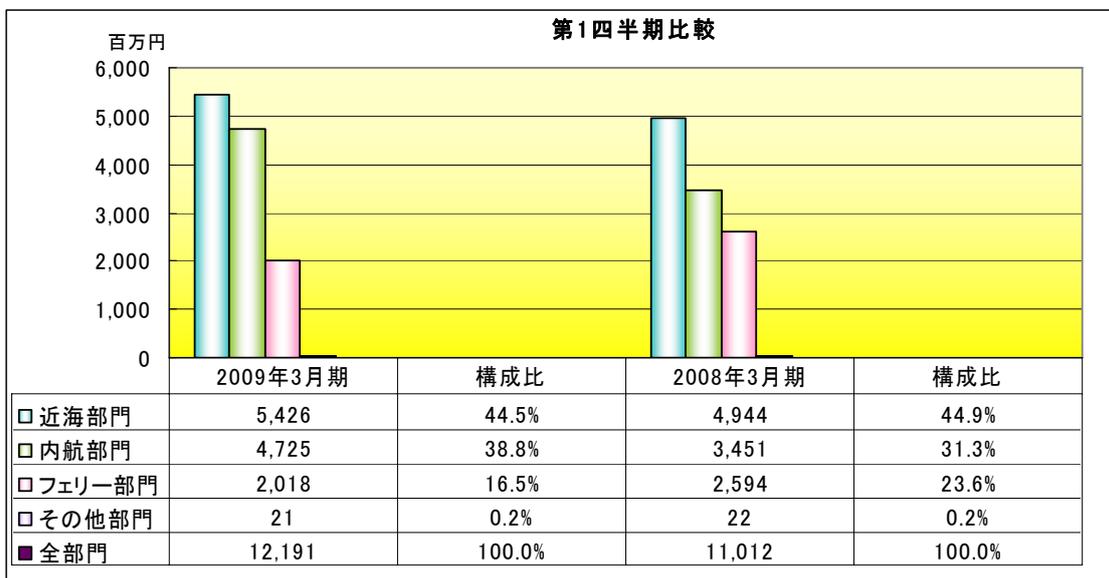
同部門の連結売上高は 47 億 25 百万円となり前年同期に比べて 36.9%の増収(※)となりました。

「フェリー部門」

八戸／苫小牧航路の旅客フェリーは、運航ダイヤの一部変更を行い、顧客のニーズに対応しサービスの充実を図った結果、輸送量は前年同期を上回ることができました。

同部門の連結売上高は 20 億 18 百万円となり前年同期に比べて 22.2%の減収(※)となりました。

※ 2008年4月1日より東京/苫小牧航路をフェリー部門から内航部門に移管しましたが、内航部門、フェリー部門を合わせた連結売上高は 67 億 43 百万円となり前年同期に比べて 11.6%の増収となりました。



連結業績予想の進捗状況

2008年5月9日に公表しました連結業績予想については現時点においてほぼ計画通り推移しているため、第2四半期累計期間及び通期ともに変更はございません。

なお、進捗状況は次の通りであります。

(単位：百万円)

	2009年3月期 第1四半期	2009年3月期 第2四半期累計期間	進捗率(%)
売上高	12,191	24,000	50.8%
営業利益	983	2,000	49.2%
経常利益	973	1,900	51.2%
当期純利益	564	1,100	51.3%

	2009年3月期 第1四半期	2009年3月期 通 期	進捗率(%)
売上高	12,191	48,000	25.4%
営業利益	983	3,800	25.9%
経常利益	973	3,600	27.0%
当期純利益	564	2,100	26.9%